

第5次小国町総合計画基本構想【概要版】



急激な人口減少や少子高齢化、経済のグローバル化など、私たちはこれまでにない大きな社会の変化に直面しています。

こうした変化を見通しながら、日々の暮らしの価値や幸福感を実感できる「暮らしの場」づくりと、農山村の新しい可能性を拓く「学びの空間」づくりを進め、100年後、200年後に続く白い森の国を創っていくため、第5次小国町総合計画基本構想を策定します。

【白い森を取り巻く潮流と課題】

①人口減少時代の到来と少子高齢化の進行



- ・共同作業の継続や災害対応などへの不安
- ・農地や山林の管理、除雪など様々な分野で課題

②地域社会の変容とつながりの希薄化

- ・集落組織の機能不全
- ・つながりを感じられる地域社会の再構築が必要

③グローバル経済の進展と産業・雇用の動向

- ・雇用のミスマッチ、農林業や商業での後継者不足、急がれるグローバル化人材の育成
- ・消費構造の変容等による厳しい商業環境
- ・若い世代の町内就業に向けた魅力づくりが必要

④安全安心な生活環境の創出

- ・想定を超えた自然災害に対する備え
→計画的な防災・減災対策、地域のつながり
- ・山間の豪雪地帯に位置する地域特性に合った医療、公共交通、除雪などの確保が重要

⑤高度情報社会への対応

- ・AI（人工知能）等の新しい情報技術が実用化
→働き方や暮らし方の多様化、産業の効率化等
- ・情報媒体としての活用可能性の拡大

【基本理念】

白い森の国おぐには、「生きるための知恵と技」と「世界トップレベルの先端技術産業」を組み合わせ、農山村の新しい可能性を拓いてきました。

白い森の国が持つ森・水・土・動物・地場産品・工業製品・暮らしの技や文化、そしてそれらを生み出し受け継いできた小国の人財など、すべてを価値ある地域資源として広く内外に発信していく、「白い森まるとブランド構想」をまちづくりの基本理念とします。

【計画の構成】

基本構想と基本計画で構成します。

<基本構想>

めざすべき将来像を明らかにし、その実現に向けて基本理念や施策の大綱を示します。

<基本計画>

基本構想に基づいて施策を推進するための具体的な展開方法や方策を明らかにします。

【計画期間】

2019年度～2025年度

【まちづくりの体系】

自然を愉しみ みんながわくわくする 白い森の国おぐに

ずっと住み続けたいまち

選んでもらえるまち

白い森まるとブランド構想

白い森の国の「人」「環境」「暮らし」が生み出す様々なモノ・コトの魅力を磨き上げ、それらを連関させて発信し評価を獲得することで「誇り」を確立。

白い森の国を担う「人」づくり

白い森の国の魅力や誇りを受け継ぎ、さらに発展させる人材が育つまち

白い森の魅力を磨く「環境」づくり

豊かな自然に包まれた、安全・安心で快適な生活環境が整ったまち

白い森を舞台とする「暮らし」づくり

誰もが活き活きと幸せに生活できる「暮らしがい」のあるまち

一緒にまちづくりに取り組む協働人口の拡大
・協働人口のさらなる拡大と活躍の場づくり
・「ふるさと町民」との協働によるまちづくり

地域を担い歴史や伝統を継承する人材の養成
・公民館や自主防災組織の活性化
・多彩な世代が個性と能力を発揮できるまちづくり
・「ふるさと文化」を継承していくための担い手の育成

未来を創る子どもたちの育成
・安心して子育てができる環境の整備
・保小中高一貫教育の推進

暮らしと産業を支える社会基盤の確保
・インフラの計画的な長寿命化と適正なサービス規模の再考
・情報通信技術を活用した暮らしの豊かさの向上

安全で快適なまちの形成
・国や県と連携した消防防災、危機管理の強化
・万全な除雪体制の維持
・自主防災組織の育成強化、防災意識の高揚、防災力の充実

豊かな自然環境と共存する生活環境の構築
・良好な自然環境の積極的な保全
・3R、省エネの推進や再生可能エネルギーの普及

豊かな暮らしを支える協働のまちづくり
・多文化、多世代間交流の場づくり
・個性豊かなライフスタイルの創出

健康で安心して暮らせる共生社会づくり
・地域包括ケアなどの仕組みの充実
・ユニバーサルデザインの視点によるまちづくり

地域資源を活かした産業と新しい観光の創生
・各産業の持続的発展と地域資源の磨き上げ
・地域総合商社を軸とした魅力づくりとブランド化

持続可能な行財政運営（健全で効率的な行財政運営の確立／広域行政の推進）
まちづくりへの参画と交流の促進（多彩な住民活動の促進／広報広聴の推進）